



甲斐市立玉幡小学校 学校だより 第8号

# 千一ム玉幡

平成30年 7月19日(木)

校長 望月和彦

## 明日で1学期終了 有意義な夏休みを！

4月5日にスタートした1学期も、明日7月20日で終了となります。授業日数は1年生から5年生が72日、6年生は修学旅行のため73日でした。この1学期の間に304名の児童は、各教科の学習、さまざまな体験や活動、学級や学年や児童会の取組、友だちとの様々な遊び、下級生や上級生との交流、校外に出かけての見学や体験など、たくさんのことを学び、経験しました。

特に、初めての小学校生活をスタートさせた1年生の成長には目を見張るものがありました。入学したばかりの頃は、お母さんに手を引かれて玄関で泣いていた子、授業中にフラフラ立ち歩いてしまう子、廊下で大の字になって泣いている子もいました。担任の先生は、「静かにしましょう」「こっちを向いて」「きちんとイスに座りましょう」など細かな注意をしていたのが4月でした。3ヶ月たった今は、担任の先生の話をしっかり聞き、手を挙げて発言したり、ノートをきれいにとったり、授業に集中して取り組んでいる姿が見られ、給食の準備や片付け、清掃活動にもしっかり取り組めるようになっていきます。そして、友だちや周りの人との関わり方もたくさん学んだようです。自分のことばかりでなく、少しずつ相手のことを考えて話したり、行動できたりするようになってきています。意欲的に学習したり、笑顔で友だちとあそんだり、「毎日が楽しく学びのある学校」になっている感じがします。



1年生の授業風景

また、6年生の成長も著しいです。小学校では6年生は特別な存在です。それは最年長者として、様々な活動の中でリーダーとして下級生を指導しなければならない立場であり、いろいろな場面で学校の代表、下級生の手本として行動しなければならないという立場だからです。3月までは、とても素直で真面目だけれども大人しいイメージの6年生でした。この1学期の間



なかよしランチ



図書委員による読み聞かせ

に、様々な場面で全校の前で堂々と発言したり、下級生に指示を出したり、困っている下級生の面倒を見たり、玉幡小学校の顔として生き生きとリーダーシップを発揮している姿をたくさん見ることができました。2年生から5年生も含め全校児童がそれぞれたくさんのことを学び、力をつけた1学期だったと思います。明日は、学級担任の先生から一人ひとりの児童に「学校生活のようす」が手渡されます。学習面、生活面のなかで、優れていたことやがんばったことが書かれていると同時に、2学期以降さらに努力してほしいことも書かれています。親子でよく読んで、これからいかにしてほしいと思います。

7月21日から8月23日まで34日間の夏休みになります。夏休みには、学期中にはできないことにたくさんチャレンジしてほしいと思います。例えば、自分の家で掃除や食事の準備片付け、洗濯物の取り込み、草木への水やり、ペットの世話など、特定の仕事や役割をやってみる。ラジオ体操や地域の行事、子どもクラブの活動などに参加する。家族や知り合いの人と普段行けない場所に出かけてみる。図書館や博物館などに行ってみるなど…色々なことが考えられます。また、夏休みの課題をやったり、自主学習をしたり、読書をしたり、自分で時間を決めて学習する習慣を身につけることにも頑張してほしいと思います。学校では夏休み中に、学習の苦手な部分を克服するための「サマースクール」を4日間、午前午後に分けて計7回実施し、複数の教師が学習をサポートします。(すでに希望をとり、参加者は決定済み) また、プールや図書館の開放日を決めて、プールや図書館の活用も呼びかけています。積極的に利用させてください。7月は記録的な猛暑となり、夏休み中も続くと思わ

れます。熱中症などの病気に注意させ、交通事故や危険な事件にも十分に気をつけていただき、8月25日の始業式には、全校児童がたくさんの思い出を胸に元気に笑顔で登校してくれることを期待しています。

## 2階廊下の来校しゃ？

先週まで本校の2階廊下には、「ムーちゃん」がきていました。「ムーちゃん」というのは国蝶オオムラサキの幼虫です。3年生理科に「チョウを育てよう」の学習があります。山梨県のハケ岳周辺は国内有数のオオムラサキの生息地で、北杜市には「オオムラサキセンター」という研究学習施設があります。そのオオムラサキセンターの職員の方が6月19日に3年生のために「ムーちゃん」を持ってきてくれました。3年生は生活科室でセンターの方から1時間ほどオオムラサキについて詳しく教えていただき、成虫になるまで本校でお借りすることになりました。廊下では3年生はもちろん、他の学年の子



来校しゃのムーちゃん どこにいるの？

もたちも「なになに、何がいの？」「ムーちゃん、どこにいるの？」「あっ！いたいた。」とたくさんの児童が集まり、人だかりができていました。幼虫やさなぎは擬態になっているので、じっくり見ないと見つかりません。私自身も幼虫やさなぎを見るのは初めてだったので、とても興味深く眺めさせてもらいました。3年生は学



オオムラサキセンター

習を深めるために、7月5日に校外学習で「オオムラサキセンター」にも行ってきました。午前中シャトレゼでおいしいアイスをいただいた後、センターに行きました。あいにくの雨模様でしたが、施設の中にはたくさんの雄や雌のオオムラサキが美しい羽を広げていました。施設の中で傘を差しながらオオムラサキを観察している子どもたちの目はみんな輝いていました。オオムラサキの美しさに感動するとともに、生き物を育む自然



の大切さを改めて感じてくれたようです。そして、7月10日の朝、2階の廊下では「ムーちゃん」がさなぎから立派な雄の成虫になっていました。（その後、ムーちゃんセンターのオオムラサキはオオムラサキセンターに返しました。）子どもたちにとって、本や映像では感じられないとても貴重な体験になりました。

## 地域の方々に玉小は支えられています！

昭和27年3月に本校を卒業された芦沢敏雄さん（甲府市在住）が、「顕微鏡一式」を本校に寄贈してくださいました。芦沢さんは運送業を営まれており、今年6月に55年間続けてきたお仕事をお辞めになるのに際し、ご自身が卒業した玉幡小児童のために何かしてやりたいと思われたそうです。去る6月27日校長室にて、芦沢さんから顕微鏡を直接いただきました。児童を代表して福島児童会長が芦沢さんに「大切に使用させていただきます。ありがとうございました。」と述べました。



菜園で見回り中の坂本さん

また、4年生は総合的な学習の時間を使って地域の特産物である「やはたいも」の栽培に取り組んでいます。今年度は、地域でやはたいもを生産しているらっしゃる坂本輝幸さん（綺羅さんのおじいさん）にご指導をお願いしています。植え付けや育て方について子どもたちに教えていただくとともに、時々来校し生育状況を見回りに来てくださっています。専門家のご指導なしにはできない学習です。



芦沢さんと児童会長

また、校舎の正門付近は道路や歩道もいつもゴミや雑草がなくきれいになっています。ここ数年、近所にお住まいの久住ふじ江さん（拓暉くんのおばあさん）が子どもたちの登校前にゴミ拾いや雑草取りをしてくれています。「たいしたことではありません。こどもたちのためにできることだけです。」と久住さん。

今回は3人の方をご紹介しましたが、この方々以外にもたくさんの地域の方に玉幡小学校在は支えられています。そうした方々への感謝の気持ちを持ちながら、将来の地域や社会を担っていく子どもたちを大切に育てていきたいと思ひます。